

# 園芸タイムリー情報

## 《6月中・下旬版》

令和3年 6月17日発行 第3号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009  
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

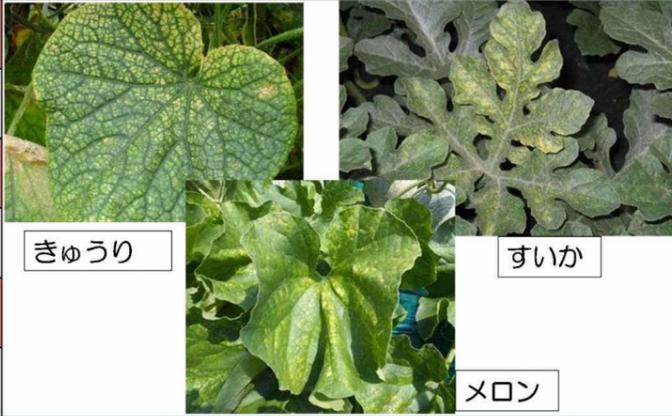
### 全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高い～ほぼ平年並の見込みです。

- ①ハウスは、気温の変動や生育ステージに応じた温度・湿度、かん水管理を徹底します。曇天後の晴天時の急激な気温の上昇、夜間や早朝の低温にも注意します。
- ②果実の肥大期、収穫期を迎える果菜類の管理は、高温、乾燥に注意し、生育に応じた温度、かん水管理を行いましょう。
- ③アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い、適期防除に努めましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害 生理障害名	
アブラムシ類	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
—	
すいかに発生したアブラムシ(左)と被害葉(右)	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。</li> <li>・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> <li>・ミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。</li> </ul>	
<防除の一例> <b>●チェス顆粒水和剤</b> きゅうり 5,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか・メロン 5,000倍 収穫3日前まで 4回以内 <b>●モスピラン顆粒水溶剤</b> きゅうり 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内 すいか 2,000～4,000倍 収穫3日前まで 3回以内 メロン 8,000倍 収穫3日前まで 3回以内	

作物名	すいか・メロン・きゅうり
病虫害 生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6月上旬	
きゅうり すいか メロン	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。</li> <li>・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。</li> </ul>	
<b>対策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。</li> <li>・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul>	
<防除の一例> <b>●コロマイト乳剤</b> きゅうり 1,000～1,500倍 収穫前日まで 2回以内 すいか 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内 メロン 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 <b>●ニッソラン水和剤</b> きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 2回以内 すいか 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 メロン 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内	

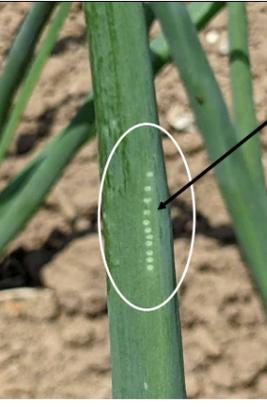
作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名		
キスジノミハムシ		
発生状況	こまつな葉部食害	
中発生	ラデッシュ根部食害	
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)	
5月下旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。</li> <li>5月下旬から成虫の発生が見られる。</li> <li>気温の上昇に伴い、発生が増加しているため注意する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●成虫期間：1~4ヵ月</li> <li>●卵期間：5~7日</li> <li>●幼虫期間：10~20日</li> <li>●蛹期間：3~15日</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。</li> <li>土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。</li> <li>ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <p>こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回</li> </ul> <p>チンゲンサイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回</li> </ul> <p>チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回</li> </ul>		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況	少発生	
発生時期	コナガ幼虫	
5月下旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。</li> <li>比布町では5月の成虫の飛来数が平年より多くなっている。</li> <li>5月下旬より幼虫の発生が見られているため、今後も注意が必要である。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場内外の雑草をこまめに除草する。</li> <li>防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。</li> <li>品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。</li> <li>ジアミド系（プレバソンフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。</li> </ul>		

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害生理障害名	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況	中発生	
発生時期	4月中旬~	
		
	チャコウラナメクジ	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。</li> <li>葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。</li> <li>雨天時や夜間は活発に活動する。</li> <li>5月中下旬の多雨の影響で発生が増加しているため、今後も注意が必要である。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。</li> <li>スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着ないように気をつける。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スラゴ 1~5g/m<sup>2</sup> (3.3~16.5g/坪) 発生時</li> </ul>		

作物名	すいか・メロン	
病虫害生理障害名	菌核病	
菌核病		
発生状況	少発生	
発生時期	5月下旬~	
		
	菌核病菌が検出されたすいかの葉の症状（下）	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。</li> <li>20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。</li> <li>すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>着果期前より予防防除を実施する。</li> <li>被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スミレックス水和剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>すいか 1,000~2,000倍 収穫7日前まで 5回以内</li> <li>メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> </li> </ul> <p>※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カンタスドライフロアブル <ul style="list-style-type: none"> <li>すいか・メロン：1,000~1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> </li> </ul>		

作物名	しゅんぎく	
病虫害生理障害名	雌成虫の被害痕	幼虫による葉裏の食害
ハモグリバエ類		
発生状況	成虫	
少～中発生		
発生時期		
6月上旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期には、雌成虫が産卵管で葉に傷をつけ、液汁を舐めたり、産卵するので、表面に白い小斑点状の加害痕が見られる。</li> <li>幼虫は葉肉内を蛇行して食害する。成熟すると葉から脱出し蛹となる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>苗への寄生と、定植ほ場への持ち込みに注意する。</li> <li>幼虫多発後から防除を開始すると効果が得られにくい。成虫や幼虫の被害痕を見落とさないよう観察し、速やかに薬剤防除を行う。</li> </ul>		
<防除の一例> ●トリガード液剤 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内 ●アファーム乳剤 2,000倍 収穫7日前まで 2回以内 ●エビセクト水和剤 2,000倍 収穫14日前まで 2回以内 ※エビセクト水和剤はマメハモグリバエで登録あり		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名	写真左 6月14日発生状況 縦並びの白色小斑点	
ネギハモグリバエ		写真下 倒伏期の多発状況
発生状況	少発生	
発生時期		
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に入り食痕が見られるようになってきた。</li> <li>発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真左）を生じる。（成虫の食痕・産卵痕など）。</li> <li>幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。</li> <li>葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後多発が予想されるので、成虫の食痕を観察し、確認したら速やかに薬剤防除を行う。</li> <li>葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。</li> </ul>		
<防除の一例> ●リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫3日前まで 3回以内 ●ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 ※ネギアザミウマの発生が見られたら、ディアナSCを選択する。 ※いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくびか等）。		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名	写真左 発生ほ場の様子 (2017年7月)	
小菌核病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	写真右 黒色菌核 (2017年8月)	
—		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>下位葉から発病することが多く、葉身に小豆形の白色の病斑が形成され、しだいに拡大し周辺部の不明瞭な縦長の病斑となる。</li> <li>病斑内側には白色綿毛状の菌糸が認められ、のちに病斑組織には黒色、1～7mmの薄片状の菌核が発生する。</li> <li>近年発生が多く見られ、5月下旬から6月上旬以降に曇りや雨の日が続くと多発しやすいので注意が必要。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>初発時期になる6月中旬から、予防的に茎葉散布を行う。白斑葉枯病と小菌核病の両方に登録のある薬剤を使用し、2回程度防除すると効果的。</li> </ul> <防除の一例> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 4回以内		

作物名	トマト・ミニトマト	
病虫害生理障害名	灰色かび病	
発生状況		
少～中発生	がくから感染した発病果実	葉の病斑とかび
発生時期		
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>一部ほ場で、果実の腐敗が見られる。</li> <li>茎葉の繁茂で、風通しが悪く湿気のこもる場所で発生している。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>3段目花房より下位段を覆う葉を先端半分程度摘葉し、日当たりと通気性を確保する。</li> <li>葉数が確保されたら下葉を除去して通気性を確保する。</li> <li>発生状況に応じて、これまで使用した薬剤と異なる系統（作用機作）の薬剤による防除を実施する。</li> </ul> <防除の一例> 発生が見られている場合に使用する剤 ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ゲッター水和剤 ※耐性菌発生予防として使用は年1回とする トマト 1,000～1,500倍 収穫前日まで 5回以内 ミニトマト 1,500倍 収穫前日まで 3回以内		

作物名	トマト類（大玉、ミニ）	
病虫害生理障害名	 	
アザミウマ類		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	産卵痕による白ぶくれ症状 <span style="margin-left: 100px;">ミニトマトの金粉症状</span>	
—		
<b>発生の状況・要因</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、ミニトマトで果実への産卵で白ぶくれ症状を生じる。</li> <li>・ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。</li> <li>・高温乾燥年に多発する傾向にあり、他作物で発生が見られているため注意が必要である。</li> </ul>		
<b>対策</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の雑草が多いと侵入が増えるので除草する。</li> <li>・葉の食害や開花中の花を観察し、発生初期に薬剤散布する。</li> <li>・青色粘着板は本種の予察に有効である。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; トマト・ミニトマト共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ディアナSC アザミウマ類 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●ウララDF ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●コテツフロアブル ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> <p>※マルハナバチへの影響日数に注意</p>		

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名	 	
アザミウマ類		
発生状況		
少発生		
発生時期	食害による葉の変形 <span style="margin-left: 100px;">へたの変色</span>	
6月上旬～	アザミウマ	
<b>発生の状況・要因</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部ほ場で発生が見られている。</li> <li>・葉の変形、白色の食害痕、果実のへたや柄の黒変が見られる。</li> <li>・1mm未満の微小な虫による食害なので、黒い板などにはたき落とし、動いている虫を確認する。</li> <li>・雑草地や自家用野菜、花壇などの周囲から発生しやすい。</li> </ul>		
<b>対策</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の雑草は飛び込みを助長するので除草を行う。</li> <li>・発生が見られる場合は、薬剤防除を行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <p>カブリダニ類導入ほ場で使用可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレオフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul> <p>カブリダニ類導入ほ場では使用不可</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul>		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害生理障害名	 	
アブラムシ類		
発生状況		
微～少発生		
発生時期	葉表の寄生状況 <span style="margin-left: 100px;">葉裏の寄生状況</span>	
5月下旬～	モモアカアブラムシ (R3/5/31 なんばん)	
<b>発生の状況・要因</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・モモアカアブラムシの発生が見られている。</li> <li>・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。</li> </ul>		
<b>対策</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。</li> <li>・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <p>ピーマン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul> <p>ししとう・なんばん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul>		

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名	 	
菌核病		
発生状況		
少発生		
発生時期	茎葉での発生 発病部位から上が萎れる <span style="margin-left: 100px;">果実での発生</span>	
6月上旬～		
<b>発生の状況・要因</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茎葉では発病部位から上が萎れて枯死、果実では軟化腐敗、幼果では落果が見られる。</li> <li>・前年に形成された菌核が土壤中で越冬し、翌年子のう盤を形成して発生源となる。</li> <li>・20℃以下の多湿条件で発生しやすく、昼夜の温度差により結露した水により分枝基部や果実が長時間濡れていることで助長される。</li> </ul>		
<b>対策</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多湿が発生の原因となるので、ハウス内の換気に努める。</li> <li>・茎葉が繁茂している場合は、懐枝を適宜除去して株の内側の日当たりや通気性の改善に努める。</li> <li>・発生が見られる場合は、灰色かび病と合わせて薬剤防除を行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; 菌核病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ロブラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※</li> <li>●ロブラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt; 灰色かび病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アフエツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●スミレックスくん煙顆粒 6g/100㎡ 収穫前日まで 5回以内</li> </ul>		

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和3年6月9日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 【食品安全編】 □■□■□■□

ー栽培等に使う水、農機具や資材の管理ー

- 生で食べられる野菜(収穫部位)に対して、収穫までの1週間以内にかん水や薬剤散布をする場合は、水質検査により安全を確認した水、飲用に適する水等を使うようにしましょう。
- 農機具や収穫容器、資材を清潔に保ち、汚物や土・食中毒を起こす微生物を運ぶ恐れのある動物や虫に触れないように保管しましょう。他の目的に使わないようにしましょう。
- 収穫物等に直接触れる農具や収穫容器は、飲用に適する水等で洗うように努め、洗った後は必要に応じて消毒しましょう。